

ニホンウナギとオオウナギ：
幼生筋節数の再検討及び生殖隔離

○ 張 成年・黒木洋明・山本敏博・岡崎 誠・安倍大介・長井 敏・柳本 卓（水産機構中央水研）・白鳥史晃・吉永龍起（北里大海洋）・望岡典隆（九大院農）・友田 務（水産機構増養殖研）

【目的】ニホンウナギとオオウナギ幼生（レプトセファルス）は筋節数（TM）で区別できるとされているが遺伝的に確認されてはいない。これら2種は産卵場を共有しているため、交雑も起こりうる。もし交雑があった場合には筋節数にも影響を及ぼすであろう。以上について検討した結果を報告する。

【方法】2008年から2015年に西部北太平洋で採取した*Anguilla*属幼生219個体のうち全長10mm以上の188個体を対象に、船上計数TMに基づき分類した。全個体のmtDNA16S rDNA配列を解析した。TMの再検討が可能な個体は研究室にて再計数した。沿岸や河川及び産卵場で採取したシラス、黄～銀ウナギを用いて得た核遺伝子における種特異的マーカーと16S rDNAによる結果を比較した。

【結果及び考察】船上計数より*Anguilla*属幼生をニホンウナギ66個体(TM: 112-119)、オオウナギ111個体(TM: 100-110)、不明11個体(TM: 98, 99, 111, 120)に分けた。ニホンウナギと判定した個体のうち3個体(TM: 112, 113, 119)は16S rDNA配列解析によりオオウナギとルソンウナギであることが示された。オオウナギと判定した個体のうち9個体(TM: 104-109)はニホンウナギ5個体とニューギニアウナギ4個体であった。不明個体のうちTM98と99の4個体はオオウナギ、TM111, 120の7個体はニホンウナギであった。TMの再検討結果より、船上での計数ミスが主な不一致の原因であることが示された。アンドロジェン受容体遺伝子で得られた種特異的RFLPと幼生219個体の16S rDNAによる種査定結果は完全に一致した。両種はアレルを共有せず、これら2種は生殖隔離していることが示された。